



## 丙午(ひのえうま)のごとく力強く

2026年、令和8年となりました。謹んで新春のお慶びを申し上げます。

さて、今年の干支は「丙午(ひのえうま)」です。この年は、盛んに燃える火のような情熱と、大地をかける馬の躍動感を象徴し、驚くほどの活気で満ちた年になると言われています。本校におきましても、この勢いにあやかり、子どもたちが「校訓」を具現化できるよう、教職員一同、決意を新たにしているところです。

校訓の一つは「健康」です。丙午の持つみなぎるエネルギーを、心身の健やかな成長へつなげ、たくましく自己を調整できる力を育てます。二つは「叡智」です。燃え上がる火のように知的好奇心を燃やし、自ら学び、深く考えることで、未来を切り拓く知性を磨きます。そして三つは「敬愛」です。馬が群れをなして走るように、仲間や地域などまわりの方々を尊重し、互いに支え合う、温かい人間関係を築いてまいります。

保護者の皆様、そして地域の皆様には、日頃より本校の教育活動を温かくお支えいただき、心より感謝申し上げます。どうぞ本年も、本校の生徒たちがそれぞれの目標に向かってさっそうとかけ抜ける姿を見守り、時には厳しく、時には温かくお導きくださいますようお願い申し上げます。



## 新しい時代を切りひらく力 ---「失敗」は、挑戦している証

最近、教育の世界では「アントレプレナーシップ教育」という考え方方が注目されています。アントレプレナーとは「会社を作る人」という意味ですが、この教育で大切にされているのは、自分のやりたいことを自分で見つけて、工夫して、何度も失敗してもあきらめずに挑戦し続ける、そんな「心の姿勢」を育てる 것입니다。



アメリカの第26代大統領のセオドア・ローズベルトは、かつて「『リングの中の男(The Man in the Arena)』であれ」というような言葉を残しました。彼は、リングの外側でヤジを飛ばす人よりも、たとえ泥だらけになっても現場で挑戦し、失敗を繰り返している人こそが最も尊いのだと説いています。

では、このことを自分の生活に置き換えてみてください。「どうせ無理だ」「失敗したら恥ずかしい」そんな心の声が、自分の挑戦を止めてしまうことはないでしょうか。「アントレプレナーシップ」の根底にあるのは、失敗を恐れない勇気です。失敗とは「終わり」ではなく、次にどうすべきかを教えてくれる「データ」に過ぎないのです。

例えば、授業で自分の考えを言うこと、部活動で新しいポジションに挑戦すること、友達関係で本当は言いにくいことをちゃんと伝えること、あるいは身近な困りごとの解決。どんな小さなことでも「こうなったらいいな」という理想を、誰かのせいにするのではなく、自分の手で形にしようと動くこと。そのプロセスこそが、これから予測困難な時代を生き抜く「力」になります。

本校は、子どもたちが安心して「失敗できる場所」でありたいと考えています。泥だらけになって挑戦する人を、私たちは全力で応援します。

2026年。失敗を恐れず、自信を持って自分の「リング」に立ち上がってほしいと思います。素晴らしい一年に、そして共に歩んでいけるよう私たちも頑張りますので、どうぞよろしくお願いいたします。